

◎景気ウォッチャー調査[2023年5月] 2023年5月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.4ポイント下回る53.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「ゴールデンウィーク以降、新規客の来店や購入が減少している。既存客については、単品の購入が増加し、客単価も前年と比べ、1割低下している。」(百貨店)、「3か月前は、全国旅行支援を使用した個人客があり、稼働率が良かった。今回は、全国旅行支援の予算が終了し、ゴールデンウィーク以降は来客数が減少している。」(観光型ホテル)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.5ポイント下回る54.7となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「受注動向から判断すると、景気の見通しは良くない。」(鉄鋼業)、「来客数は前月と比べ約17%の減少、成約件数は前月と比べ約12%の減少と、落ち込んできている。また、前年と比べると、来客数、成約件数共に約15%の減少となっている。来客数の減少の要因として、G7広島サミットの開催が考えられる。」(不動産業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.6ポイント下回る50.0となった。

雇用関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を8.1ポイント下回る54.4となった。

	5月	4月	前月差
合計	53.7	55.1	-1.4
家計動向関連	54.7	55.2	-0.5
企業動向関連	50.0	51.6	-1.6
雇用関連 (参考値)	54.4	62.5	-8.1

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を1.0ポイント下回る55.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「半導体不足の影響で、販売できる車種が限られているため、今後、販売台数が減少する。」(乗用車販売店)、「電気料金が上昇し、客が家電商品の購入に回す金額が減少し、売上も減少する。」(家電量販店)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.4ポイント下回る54.0となった。

企業動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「原材料費やその他の経費が大幅に上昇しても、商品価格に転嫁できない。秋口にも商品を値上げし、経営基盤を安定させないと、厳しい状況になる。」(食料品製造業)、「原材料費や電気料金の上昇で、景気はやや悪くなる。」(一般機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.2ポイント下回る55.3となった。

雇用関連は、「第二新卒層の動きが出てくるタイミングのため、転職相談件数が増加する。」(民間職業紹介機関)、「採用選考が開始し、就職活動が本格化するため、景気はやや良くなる。」(学校)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.1ポイント上回る61.8となった。

	5月	4月	前月差
合計	55.1	56.1	-1.0
家計動向関連	54.0	55.4	-1.4
企業動向関連	55.3	56.5	-1.2
雇用関連 (参考値)	61.8	60.7	1.1